

全国約 4,500 台の J:COM 営業車を対象にした 「ライドシェアサービス」の実証実験を実施

株式会社ジュピターテレコム（J:COM、本社：東京都千代田区、代表取締役社長：石川 雄三）は、地域の足を守り、日常生活の利便性を向上させるモビリティサービスの実現を目指し、全国約 4,500 台の J:COM 営業車を対象にした J:COM MaaS（ライドシェアサービス）の実証実験を 2020 年 7 月 16 日から実施します。

■背景

昨今、高齢者ドライバーによる悲惨な交通事故が多発しています。2019 年には、60 万件にものぼる運転免許の返納があり、地域の足が失われていく状況が深刻な社会問題となっています。

J:COM では、「お客さま・地域の課題を DX で解決し、新たな価値を創造する」というビジョンのもと、生活圏における日常の移動をより便利にするサービスの提供を将来的に検討しています。

＜J:COM MaaS(ライドシェアサービス)イメージ＞

- ・生活圏内を自由に移動できるサービス
- ・病院などの特定施設へ移動できるサービス
- ・マンションから駅までの送迎サービス
- ・生鮮食品や生活用品、料理のデリバリーサービス

■実証実験の概要

現在 J:COM は、全国で約 4,500 台の営業車両を有しており、営業スタッフ自身が 1 人 1 台の車両を運転し、お客さまのご自宅を訪問しています。実証実験では、営業スタッフ複数人が相乗りできる大型車両（専属ドライバーが運転）を導入し、営業活動の送迎サポートとして 2020 年 7 月 16 日から実施します。

- (1) 営業スタッフは、J:COM MaaS アプリで乗車場所とお客さま訪問先・到着希望時間を指定します。
- (2) 即座に最適な車両選定と走行経路が算出され、ドライバーへ目的地までのナビゲーション情報が通知され、営業スタッフへ乗車予定時刻・到着予定時刻が記載された乗車パスが発行されます。
既に営業スタッフが乗車中の場合、走行経路の再設定がリアルタイムに行われます。
- (3) 営業スタッフは指定された時刻に乗車、お客さま訪問予定時刻までに到着することができます。

ライドシェアサービス導入による営業車両の削減・CO₂ 排出抑制と共に、J:COM MaaS アプリを通じた様々なデータを蓄積し、アルゴリズムの高度化やアプリの UI・UX 向上を行い、商用化に向けたライドシェアサービスの有用性と発展性を検証します。

なお、新型コロナウイルス感染症対策として、車内換気と除菌を徹底したうえで、実証実験を進めていきます。

■J:COM MaaS(ライドシェアサービス)の特徴

＜使いやすいアプリ＞

乗降場所と到着希望時間を入力することで配車予約が可能です。ドア to ドアだけでなく、多くの乗客が相乗りすることにより、効率的な移動を実現します。

＜先進のアルゴリズム＞

ビッグデータや AI を活用し、最適なルーティングを瞬時に設定します。乗客の様々なニーズに対して、柔軟な対応が可能です。

■実証実験プロジェクト名 「J:COM For !」

■実証実験の期間 2020年7月16日 ~ 2020年12月31日(予定)

■実証実験の場所 J:COM 東京 東エリア (東京都 練馬区、埼玉県 和光市・新座市)
J:COM 堺 (大阪府 堺市・和泉市 他)
※順次、拡大予定

■実証実験の対象 J:COM 営業スタッフ 約 230 名(開始時)
車両台数 6 台(開始時)
※順次、拡大予定

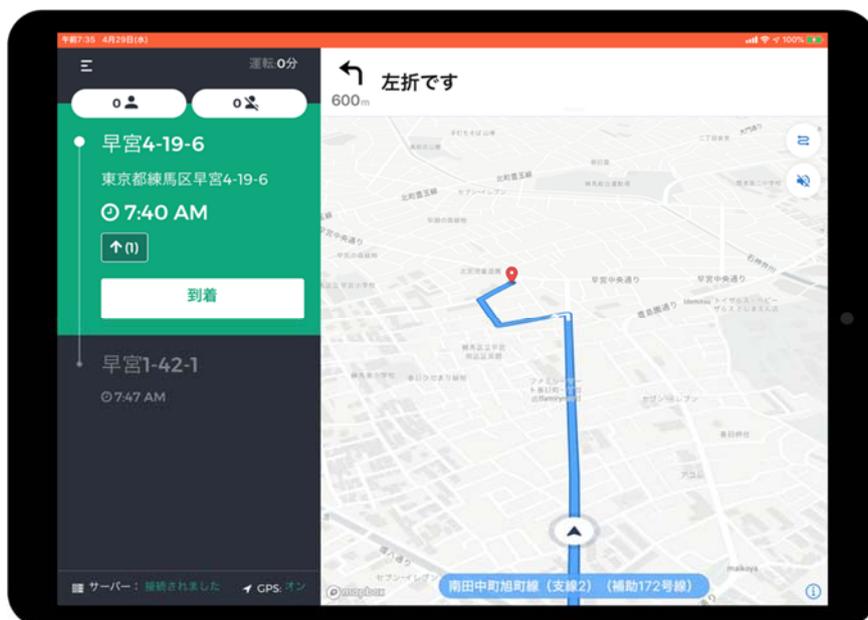
■協力 SWAT Mobility Japan 株式会社 (MaaS アプリケーションサービス提供)
株式会社ジャパン・リリーフ(専属ドライバー)

■J:COM MaaS アプリ 画面イメージ

<乗客用アプリ>



<ドライバー用アプリ>



ジュピターテレコムについて www.jcom.co.jp/

株式会社ジュピターテレコム(本社:東京都千代田区)は、1995年に設立された国内最大手のケーブルテレビ事業・番組供給事業統括運営会社です。ケーブルテレビ事業は、札幌、仙台、関東、関西、九州・山口エリアの11社70局を通じて約554万世帯のお客さまにケーブルテレビ、高速インターネット接続、電話、モバイル、電力、ホームIoT等のサービスを提供しています。ホームバス世帯(敷設工事が済み、いつでも加入いただける世帯)は約2,173万世帯です。番組供給事業においては、17の専門チャンネルに出資及び運営を行い、ケーブルテレビ、衛星放送、IPマルチキャスト放送等への番組供給を中心としたコンテンツ事業を統括しています。
※世帯数は2020年3月末現在の数字です